

ご入学おめでとうございます

一年生
学習ポイント
BOOK

将来にわたって伸びてゆく真の学力を育てます

完全少人数制 宮田塾

はじめに

お子様の小学校ご入学おめでとうございます。お子様も胸いっぱいの期待をもって、小学校生活のスタートを切られることと存じます。

さて、小学1年生は、本格的な学習スタートの学年として重要な意味を持っています。この学年で、学習習慣や勉強に対する姿勢を身に付けておくことは、長い目で見て非常に重要なことです。そこで、以下に小学1年生の学習のポイントや盲点を一部指摘させて頂きました。希望に胸をふくらませて入学を迎えたお子様達が、いつまでも勉強を楽しむことができることを願って作成致しましたので、自宅学習・通信教育・学習塾、いずれの方法を選択なさっても役立つ内容となっております。ご一読いただければ幸いです。

- 1.小学1年生の学習上のポイント
 - 2.保護者様の心構え
 - 3.中学受験について
 - 4.各種学習手段
- の順にご説明致します。

1.小学1年生の学習上のポイント

小学1年生の学習内容自体はそれほど難しいものではありません。しかし、つまづきやすい所や盲点もありますので、油断は禁物です。以下、国語と算数のポイントについてご説明致します。

————— 国語 —————

< 「ひらがな」について >

学校で「ひらがな」を学習する時間は意外に短いものです。既に「ひらがな」を読み書きできるお子様も多いことと存じますが、筆順やまぎらわしい文字(例えば「め」と「ぬ」)の書き分けには注意をしてあげてください。今から「ひらがな」を学習されるお子様やまだあやふやな所があるお子様は、できるだけ早めに自宅で練習しておくとうろしいかと思えます。授業中だけでなく、連絡帳を正確に書くためにも必要となります。

< 「漢字」について >

1年生の「漢字」については、「ひらがな」よりもスムーズに学習が進むお子様が多いように思います(余談ながら、これは「漢字」と「ひらがな」を処理する脳の部位が違うことに起因するようです)。ただ、筆順や漢字の形については、いい加減になりがちですので、必ずチェックしてあげてください。

< 「カタカナ」について >

意外に思われるかもしれませんが、漢字が書けるのに、カタカナがあやふやになっているお子様は結構多いものです。学習時間が短いことと、「ひらがな」ほど書く機会が多くないことに起因すると考えられますが、やはり1年生の間にしっかりと書く力をつけておきたいところです。「カタカナ」は漢字の一部を取り出して作ったものですから、漢字の基礎をなしているという風にも言えます。実際、「漢字教育の観点から、小学生の文字教育はひらがなよりカタカナから始めるべきだ」という趣旨のことをおっしゃる著名な漢字学者もおられる程です。「カタカナ」の筆順は、「漢字」の筆順の基礎になりますので、しっかりとチェックしてあげてください(「イ」と「にんべん」、「ロ」と「くち」等をお考え下さい)。また、長音(伸ばす音)、拗音(「キャ」「ニュ」など)なども正確に表現できるかをチェックしてあげてください。

< 文章をしっかりと読むという姿勢 >

これから先、どのように社会が変わっていかうとも、文章を読解する力の重要性は変わりません。むしろ重要性を増してゆくと考えるべきでしょう。小学1年生からその基礎をしっかりと築いてゆきたいところです。。具体的には「文章をいい加減に読まずしっかりと読む」ということが重要です。小学生低学年段階の生徒にとって黙読は結構難しいものです。必ず音読させて、一文字一文字飛ばさずに読んでいるか、語句の区切りがおかしくないか等をチェックして頂きたいと思います。学校の宿題として教科書の音読が出されることもありますが、その際には(他の用事をしながらでも結構ですので)出来るだけ付き添ってあげてください。いずれにせよ、真剣に文章・ことばに向き合う姿勢を形成することが、現時点ではもっとも重要視すべきことでしょう。

< 繰り下がりのある引き算 >

数の概念をしっかりと理解しており、繰り上がりのある足し算が正確にできる子供でも、「繰り下がりのある引き算」(例えば $12 - 5$ といった引き算です)になると、結構間違ふことがあります。概念の理解に苦しむというよりも、不注意によるミスが多いように見受けられます。この種類の引き算が苦手なまま放置しておくと、2年生で登場する「3桁の数どうしの引き算」、3年生で登場する「あまりのある割り算」などで詰まってしまいます。将来、算数に苦手感を持たないよう、1年生の間にしっかりと身に付くようチェックしてあげて下さい。

< 文章題について >

先程に申し上げた国語のポイントともつながっていますが、「わかりきった問題であってもしっかりと文章を読む癖を身につける」ことが非常に重要です。要領のよい子供だと逆に文章内の数字だけをピックアップして式を書きしてしまう場合があります。たとえば次のような間違い方です。

(問題)ケーキが 11こ あります。7にんの こどもに 1こずつ くばるとなんこのこりますか。(誤答) $11 + 7 + 1 = 19$, こたえ 19こ

しっかりと読んでいれば、「1」は関係のない数字、配ったらケーキは減るはずだから引き算、ということに気づきやすいのですが、いい加減に文章と向き合っていると、こういう間違いを犯すことがあります。しっかりと問題文を読み(できれば音読させるとよいでしょう)、答えには単位を忘れずに付けるという姿勢ができているか、チェックしてあげてください。なお、1年生ですと「足し算」「引き算」だけの文章題ですが、学年が上がるにつれ「掛け算」「割り算」(およびそれらの混合)も加わってきます。計算ができて、文章を式に変形できないという小学生は非常に多いので、1年生の段階で「足し算」「引き算」それぞれの概念と適用範囲をしっかりと理解しておきたいところです。

< 計算力について >

計算が速く正確にできるという力は非常に重要なものです。この力を身に

つけるには、やはり反復練習を行うしかありません。小学校で配布される教科書をご覧になるとご理解いただけるのですが、教科書に出てくる計算練習の量は決して多くありません。担任の先生によって宿題の量もまちまちなことが多く、やはり自宅における計算練習が不可欠です。といっても長時間の練習は必要ありません。気楽に1日15分程度の練習時間をとってはいかがでしょうか。計算力アップの素材としては、100マス計算がことに有名です。低学年の計算問題としては非常によく出来ていますので、ご利用になるのもよいでしょう。ただ、小学生は「計算が速い＝頭がよい」と短絡的に思いこみがちですので、ややもすると正確さをおろそかにして、スピードばかり追求する姿勢が育ちかねません。時間を計測する場合は、同級生のスピードと比較せず、あくまでも自分の能力を高めるためだ、ということ認識させて欲しいと考えます。蛇足ですが、一部マスコミなどで「100マス計算をやっておけば小学生の算数は万全だ」というように言われることがありますが、全くの誤解です。あくまで、低学年用の計算力アップの素材の一つです。賢明な保護者様にはご理解頂いているかと存じますが、念のため申し添えておきます。

< 計算力と文章題 >

先程述べましたとおり、正確な計算力を身につけることは非常に重要なことです。しかしその反面、計算ばかりにこだわって本質的な理解をおろそかにすることは最も避けねばならないことです。機械的に計算だけをこなし、文章の意味を深く考えない癖が一度身に付いてしまうと、これを矯正するのに大変な時間がかかってしまいます。低学年の間はまだ計算が簡単なこともあり、こうした癖を身につけてしまうお子様は結構な数にのぼると見ています。是非気を付けてチェックしてあげてください。

2.保護者様の心構え

————— 成績について —————

特に低学年の小学生に言えることですが、学力と通知簿の成績は必ずしも比例しません。まだ学習内容が単純なこともあり、ペーパーテストの点数よりも、積極的に授業に参加したか(授業中にどれだけ挙手して発表したか)などが

重視されることも多く、消極的なお子様はどうしても通知簿上の評価が高くない傾向があります。しかし、低学年時の評価が将来における学力と結びついていないわけではありません。授業への参加という面では消極的だが、しっかりと先生の話聞いていて理解は十全である、といったタイプのお子様は結構多いものです。したがって、目先の成績よりもむしろ、各学年で理解すべきことをしっかり理解し、十分な量の練習を積んでいるかどうかをチェックして頂くことが肝要だと考えます。どうしても通知簿上の成績に一喜一憂したくなりますが、あくまで目安の一つとお考え頂くのがよろしいかと存じます。

————— 長い目で学力向上を考える —————

上記の項目とも関連しますが、目先にこだわることなく、長い目で見て学力の向上を図って頂きたいと考えます。具体的には読書時間を長く取るなどの方法が考えられます(読書はどの科目にも好影響があります)。特に算数などは、上の学年の計算ができることが賢さを証明するかのように捉えられがちですが、決してそのようなことはありません。計算は本質を理解していなくとも表面的なルールさえ覚えればそれなりに出来てしまうものです。しかし、そのようなルールの暗記はすぐに忘れてしまいがちです。実際、分数の割り算(6年生配当)ができるのに2桁同士の掛け算(3年生配当)ができないなどというケースは珍しくありません。また、計算ばかり練習している子供は、自分で考えようとする姿勢に乏しく、文章題を非常に苦手とする傾向があります。自分の学年より上の計算が出来るという慢心が、学校の授業をおろそかにしたり、同級生を見下したりするという弊害を生んでいる場合すらありますので、気を付けて頂ければ幸いです。数々の実例からしても、小学生時の算数の進度差は中学生の時点でほぼ間違いなく解消されてしまいますので、「〇〇君はすでに〇年の計算ができる」といった情報に惑わされないことが大切です。

————— 学習習慣の確立・勉強に対する謙虚な姿勢 —————

小学低学年の時点で最も大切なことは、「学習習慣の確立」です。中学高校での勉強はもちろん、大学進学後の研究、ひいては社会に出てから新しいことを吸収してゆく場合など、すべての局面でこの学習習慣が生きてきます。また、「勉強に対する謙虚・真面目な姿勢」も必ず身につけておく必要があります。「こんなこと分かっている」「こんなこと勉強しても無駄だ」といった姿

勢のお子様の学力は本当に伸びにくいものです。慢心やあきらめの芽がないか、チェックして頂きたいと思います。余談になりますが、大学受験段階を考えても、一流大学に合格してゆくレベルの生徒は、間違いなく勉強に対して非常に謙虚な姿勢を持っています。学力と「勉強に対する謙虚な姿勢」の関連を強く感じるゆえんです。

3. 中学受験について

私立中学進学のため中学受験をお考えの保護者様もおられるかもしれませんので、言及しておきます。

私立中学合格のためには、一定以上の負荷をかける必要があり、受験テクニックに属する事項の習得も必要となってくるのは事実です。だからといって、低学年時から受験勉強に奔走させるのは、はなはだ疑問だと言わざるをえません。中学受験のためには、まだ精神年齢の幼い小学生に、受験に対する強い動機付けを行い、長時間の勉強を行わせること(受験学年においては毎日最低5時間程度、追い込み時には10時間前後は必要でしょう)が必要となってきますし、保護者様にも勉強面・精神面・金銭面のすべてにおける協力体制を築いて頂くことが不可欠です。こうした意味で、中学受験は大学受験より難しい側面があるとも言えます。このような負担をお子様には掛けることには、やはりそれなりのリスクがあります。例えば、勉強自体が嫌いな子になってしまい、受験のみならず勉強自体を放棄してしまう、といったケースは最も避けねばならないところです。また、中学受験には成功したものの大学受験のころには疲弊しきっているようなケースもやはり存在します。

もし仮に中学受験をお考えの場合も、1～4年時は基礎的な力を蓄え、受験学年(われわれは小学生が全力で集中できる期間、および、数々の事例から見て1.5～2年間で妥当だと考えます)において、志望中学に向けての勉強に没頭するというスタイルが最も合理的ではないかと考えます。近時の中学受験塾は、低学年からの受験準備を強調することが多いようですが、少子化をにらんだ営業戦略にすぎないと言えます。実際、難関中学に合格したお子様達と話をしてみても、ほぼ全員が1～4年間の受験指導は全く意味がないと認識しています。中学入試問題が1～4年の内容からはまず出ない(5・6年の内容からしか入試問題を作成しようがない)ということも考え合わせれば、ご納得

いただけるかと存じます。

やはり中学受験には向き不向きがあります。具体的には、小学生高学年の時点で精神年齢が高い子供は受験向きですし、精神年齢が低い子供は受験の意義を理解した上で全力投球することが難しいということになります。ただ、いずれが良い悪いという問題ではないこともご理解下さい。受験という負担を小学校卒業時よりも、中学校卒業時に持ってきたほうがよいと判断される子供は、そうなったほうが最終的によい結果が生まれるということです。

以上、中学受験に関して賢明なご選択をなさる一助となれば幸いです。

4.各種学習手段

————— 学校外における学習の重要性 —————

ゆとり教育の弊害や学力低下の深刻化についての報道を皆様もご覧になったことがあるかと存じます。実際、学校・塾のいずれにかかわらず、現場の教師と話しますと、ここ数年の小中学生の学力低下のすさまじさにおいて意見が一致します。近時、こうした状況に対応すべく、指導要領や教科書内容の改訂などが文部科学省によって行われていますが、やはり小手先の変更という感じをぬぐえません。小学校が学力向上だけではなく、心身の健全な育成、社会性の涵養などを目的としている(もちろんいずれも非常に重要なことです)ことに加えて、多人数クラスの授業という形式を採らざるを得ない以上、そもそも、学力向上という面では、多くを学校に望めないのが実情です。したがって、学校外における学習の必要性はいくら強調してもしすぎることはないと考えます。もちろん、学習塾のみがその手段ではありません。自宅学習という方法もありますし、通信教育という手もあるでしょう。いずれにせよ、学校の授業も大切にしながら、並行して着実な学力の定着を図って頂きたいと考えます。以下、各方法についての注意点を述べたいと思います。

< 自宅学習 >

先述した通り、小学1年生の学習内容自体はそれほど難しいものではありませんので、保護者様がお子様の学習に付き添って指導するということが十分可能だと思います。ただ、親子間ということで、子供側に甘えが生じることがありますので、しっかりと勉強に対する厳しさをもって指導していただきたい

と考えます。また、子供の理解していない点をできるだけ客観的に把握するよう努めていただくとよろしいかと存じます。

< 通信教育 >

大手の教育会社が主催している通信教育ですが、教材自体はよく練られたものが多いように思います。学習塾を主催している我々は、テキスト選定の必要から、塾用教材・市販教材など数千冊にわたって目を通しておりますが、その中でもかなり良質な教材の部類に含まれると言えるでしょう。また、最近では教科書準拠版が作成されているため、学校のテスト対策としても利用できます。ただ、何より気を付けて頂きたいのは、「強制力の欠如」という点です。通信教育は、1人で机に向かい、書かれていることをしっかりと理解した上で問題を解く、ということが要求されます。この作業は小学生にとってなかなか継続が難しいものです。実際、かなり学力の高い子供であるにもかかわらず、何ヶ月分もの教材をため込んでいる、というケースが見られます。また、口頭で説明を聞けば容易に理解できるが、文章では理解しにくいという箇所も存在します。加えて、同学年の生徒との切磋琢磨がないことも欠点の一つです(小学生の勉強において競争心は意外に重要なファクターです)。以上より、保護者様の方で、決まった時間お子様を机に向かわせるという管理をして頂き、お子様が難しいと思った所は口頭で指導してあげるという手順を踏んで頂きたいと思います。なお、添削は部分的なものですし、返送されてくるまでに時間がかかります。したがって、間違いがないかどうか、またその間違いの癖はどのようなものかをきっちりと保護者様で分析していただく必要もあるでしょう。

< 学習塾 >

しっかりとした運営のなされている学習塾を利用すれば、上記のような弊害を回避できますが、やはり時間的・金銭的なコストがある程度掛かることは否めません。また、塾の指導内容を外部からうかがい知ることが難しい、という点をご不安に思われる保護者様も多いようです。

ここでは、手前味噌になりますが、宮田塾についてのご説明をさせていただきます。当塾にご興味のない方は、お読み飛ばし頂いて結構です。

1.完全少人数制による指導

小学1年生に関してはクラス上限生徒数を6名程度とし、生徒1人1人の状況(学力・性格など)を細部まで把握した上で授業を実施しております。

2.代表・副代表による責任授業

小規模な塾ですので、いずれの授業も代表もしくは副代表が責任をもって担当致します。豊富な指導経験に基づく充実した授業・学習全体にわたるサポートをお約束致します。小学1年生につきましては、「学習習慣の確立」を念頭に置きつつ、国語・算数・英語という科目を通じて、勉強の楽しさを学んでいただきます。

3.地域の教育事情に密着した指導

代表自身がこの地域に暮らし続け、地域の学校を経ておりますので、一般的な教育事情はもちろん、地域特有の教育事情にも配慮した指導を行っております。各小学校の採用教科書やテスト傾向へのきめ細やかな対応は、全国一律の指導内容となるフランチャイズ塾には望めません。

4.欠席振替制度

補助的な制度として欠席振替制度(無料)を設けております。体調不良やご家庭の用事で欠席なされた際にご利用いただけます。

当塾にご興味をお持ちになられた方は、別紙広告をご覧ください。より詳しい指導方針を記載しております。もちろん保護者様同伴の無料体験授業も歓迎致します。なお、クラス定員到達により、ご入塾のご希望にそえない場合は悪しからずご了承下さい。(他学年につきましてもお気軽にお問い合わせ下さい。入塾可能なクラスもございます。)

以上、長々とお読み頂き、まことにありがとうございました。お子様の学力向上の一助となれば幸いに存じます。